

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 岡崎市立梅園小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒444-0071

愛知県岡崎市稲熊町字4丁目68番地1

E-mail : omezono@st.oklab.ed.jp

Website : http://www.oklab.ed.jp/weblog/omezono

児童生徒数：男子 414名 女子 329名 合計 753名

児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（被災地との交流学习）

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

1. ねらい

4月、各学級の代表が集まる児童会の話し合いで今年度の活動計画を考えた。そこで「被災地との交流」という意見が出た。震災から2年が過ぎ、記憶が風化しつつあることを危惧していたため、被災地に目を向けることができ、うれしく思った。子どもたちの中に育ち始めた「できることを確実に実行しよう」という意気込みを生かし、「つながり」を大切にして、思いやりのある優しい子どもを育てたいと考えた。

2. 実践内容

(1) 梅ジュースプロジェクト

本校にある梅林では、毎年たくさんの梅の実が収穫できる。第1弾プロジェクトでは全校で作る過程を手分けして梅ジュースを作り、被災地へ届けようと考えた。震災を忘れない決意を被災地に向けて誓った、全校集会を実施した。この梅ジュースは、職員研修「被災地訪問」の際に、石巻市押切沼仮設住宅へ届けた。

(2) 被災地のくらしに学ぶ家庭科学習の実践

被災地訪問の様子を映像で伝えると「仮設住宅では、どんな暮らしをしているのだろう」「困っていることはないのかな」と、そこに住む人々に目を向けるようになった。そこで、家庭科「暑いくらしを快適に」の学習の発展として、被災地のくらしの工夫について考える授業実践をした。押切沼団地民生委員の齋藤さんと電話で直接話すことで、テレビではあまり伝えられない被災地の今のくらしと、工夫を知ることができた。

(3) 学芸会「明日へ」を通じた被災地に贈るメッセージ作り

「梅ジュースを受け取った方々は、ぼくたちのメッセージを見て、涙を流していたね」子どもたちは、自分たちが書いたメッセージや梅ジュースが被災地の方々を動かしたことを感じ、さらに何かできることはないかと考えた。そこで、10月に行われている学芸会を活用して、6年生は石巻に「歌とメッセージ」を届けることを考え、自分たちの気持ちが伝わるよう考えながら練習に励み、力いっぱい演じ切った。

3. 成果

被災地との「つながり」の中で、思いやりのある優しい子どもを育てたいと考えた本実践。被災地の方々からいただいた温かい手紙や言葉が子どもたちの心を耕した。「今できること」は、被災地のことを忘れず、一日一日を一生懸命生きることではないだろうかと考え始めた。本実践は今後も継続していきたい。一歩ずつ、子どもとともに。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（)